

入賞

ぼくは何をして生きるのか

岩出中学校 1年 野口 翔真

「人間にとって大切なものは何か」そう聞かれたとき、ほとんどの人は命・お金・家族と答えると思う。では人として大切なものは何かとたずねられると答えは変わるかもしれない。ぼくがこのテーマを選んだのは昨年、母方の祖父が亡くなったことをきっかけに、「人の死」に直面し、「ぼくは何のために生きてるんだろう」と考えるようになったからである。

祖父が亡くなったのは半年前。高齢のため骨がもろくなり、何度も骨折し、手術と退院をくり返していました。コロナ禍でお見まいに行くことができず、たまに話すテレビ電話では見る度にやせ細っていく祖父を見ても死ぬことは想像できていなかった。またそのうち退院してこれまでと変わらずいつも通りの生活にもどるものだと思っていた。しかし、徐々にろくに食事がとれなくなり、だんだんとすい弱していった。体力が持たず命果てた姿を見た時、言い表し様のない感情がこみ上げた。元気な時は一緒に買い物や観光に出かけたり、美味しいものを食べに行ったり、トランプをして遊んだりしていたのに、細く真っ白な体で天をあおぎ、ぼくの目の前に横たわる祖父と同一人物なのかと受け入れられなかった。焼き場で骨だけになったのを見て「人って一体何なんだろう」とぼんやり考えたりしていた。

小学生の時にアンパンマンの作者である、やなせたかしさんについて学んだことがありました。父を戦争で亡くし、母と弟の三人で子供のころを暮らしていましたが、戦争が長引き、いずれ弟も特攻隊に志願し死んでしまいました。自身のコンプレックス、なやみ、進む道がわからず苦勞をされたそうです。その後のインターネットでアンパンマンのマーチの歌詞を調べたことがある。「何のために生まれて何をして生きるのか こたえられないなんて そんなのはいやだ」「なにが君の幸せ何をして喜ぶ わからないまま終わる そんなのはいやだ」という歌詞がある。あの

明るいメロディーに子供向けのアニメとは思えない重い内容の歌詞が乗せられているのです。祖父の死を機会にふとその歌詞を思い出し、自分自身に問いかけたことがある。

ぼく自身は何のために生きているんだろうか考えた時、遊ぶため？幸せになるため？では幸せってどんなことなのか？十二歳のぼくにはまだまだ分かるはずがない。きっとこれからも幸せなことも楽しいこと、くやしい思いをすることや、もしかしたら失敗や辛いことも体験することになるかもしれない。

では、どんな大人になりたいか？と考えた時、家族がいて、友達もいて、そこそこ真面目に仕事をしていて善良な人間かな？と想像しました。

一度きりの人生、豊かに過ごしたいと思う。人間はだれでも生き方次第で良にも悪にもなるものだと思う。ある作家の言葉で「人生はやり直すことはできない。しかし見直すことはできる」という言葉がある。まずは自分自身を大切にし、一日一日を大切に生きること、ぼくの周りの家族や友人も大切にしたい。限りのある時間を大切に楽しく過ごす工夫が大事なのだと思う。

中学生となり、勉強や部活など今までとは異なって不安もいっぱいだけど、まずは中学校生活を楽しく過ごしていけるようにしたいと思う。